【169】

氏名	中 野 正 美
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３２５０号
学位授与の日付	平成１０年９月３０日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Survey of Above Knee(A/K)Prostheses Currently Used in the Chugoku-Shikoku District of Japan （中国・四国地方における大腿義足の実態調査研究）
論文審査委員	教授　田中　紀章　教授　青山　英康　教授　村上　宅郎

学位論文内容の要旨

近年生体工学の進歩によって数々の義足の部品が開発され、大腿義足の機能が格段に進歩した。中国四国地方の84名84肢の片側大腿切断者について年齢、性別、義足のタイプ、ソケット、部品について調査した。84名中10名(11.9%)が女性であった。74名(88.1%)が40歳以上で、40名(47.6%)が60歳以上であった。切断からの期間は25年以内が58名(69.0%)であった。1/3が殻構造、2/3が骨格構造の義足を使用していた。骨格構造の義足が次第に普及しつつあるが、高齢の切断者は殻構造の義足を使用し続ける傾向がある。31名(36.9%)は差し込み適合式ソケットを使用しており、和式の生活を好む高齢者には好都合である。37名(44.0%)は歩行時、固定膝を使用していた。このうち27名(73.0%)は60歳以上であった。73名(86.9%)は安定性の良い単軸足を使用していた。このように、高齢の切断者において一般的な義足は差し込み適合式ソケット、固定膝、単軸足の組み合わせであった。新しい高性能の義足は若い活動性の高い切断者に用いるべきである。

論文審査結果の要旨

本研究は中国・四国地方における大腿義足の実態を調査したものである。84名 84肢の片側大腿切断者について義足のタイプ、ソケット、部品などについて調査された。それによると骨格構造の義足が次第に普及しつつあるが、高齢者では殻構造のさし込み適合ソケット義足を使用し続ける傾向にあり、和式の生活に適応したものと考えられた。これに対し、新しい高性能義足は１～２ヶ月の入院装着訓練が必要であり、若い、活動性の高い人に用いるべきもので、義足を処方するにあたり、切断者の身体的特徴および活動性が評価されなければならないと考えられる調査結果であった。

本調査研究はあまり省みられない義足の実態調査を現場医師の立場から行ったもので、社会的・医学的意義を有するものと考える。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格がある。